

シラバスの役割

共通教育主管 奥田一雄

夏休みはいかがでしたか。アルバイトに専念，サークル活動に没頭，旅行やバカンスで思い出づくり，読書三昧，趣味の世界を満喫，ボランティア，そして卒業論文のための研究。人々とのふれあい，新しい発見や感動を通じてみなさんそれぞれがひとまわり成長したことでしょう。

2学期が始まるにあたって，シラバスから見た学生と教員の間を考えてみましょう。

学生は授業を受ける側，教員は単位を出す側。学生の自主的な学びが中心となる大学では，この学生・教員関係は単純すぎますね。学生自身が授業で何をどのように学ぶか，どこまで学びとれるのかを期待を含めて把握するためには，シラバスが不可欠です。授業のねらいと目標，具体的な授業内容と方法を見て，学生が授業（教員）を選び，提示された内容を能動的に学習することを決心します。また，学生は自主的な学習で教員が求める課題（予習，復習，レポート）と，それを解くために必要な教材・教科書等をシラバスから知り，自学自習の参考にします。

シラバスには，授業で達成すべき学力水準と成績評価の基準を，教員が学生に明確に知らせる目的もあります。学生は設定された学力に到達するために学習努力し，教員はシラバスで提示した授業計画をきっちりと実施して学生の学力を伸ばす努力をします。時々，小テストで授業の理解度をお互いに点検します。最終的な成績評価によって，学生はその授業を自ら学びとったという達成感と学力到達証明（単位）を獲得し，教員は自分の授業によって自らが期待する水準にまで学生が成長したという充実感をもちます。このように，シラバスは学生・教員の相互の関係と約束をしたためています。

学生・教員の相互の関係を通して授業改善もなされます。教員は学生の受講態度やレポートの結果などを見ながら、自分の授業内容や方法を不断に見直します。シラバスは学生による授業評価にも使われます。授業がシラバスに沿って行われているかなどを学生が評価します。その評価を教員にフィードバックすることにより、学生は授業内容をさらに深く理解できるように、教員は自分の熱意や努力をもっと適切に学生へ伝えられるようになります。このように、シラバスは学生と教員の間が良い意味での相互の緊張関係をつくり、学生の学習意欲を高め、かつ、教員の授業内容と方法を向上させるのに役立ちます。

共通教育委員会は、シラバスにもっと詳しい情報を盛り込んでその内容を充実させ、それらをホームページから検索・閲覧できるようにと考えてきました。そして、これを各学部の専門教育にも拡大して検討しようということになりました。来年度からシラバスの電子化を全学的に実施する予定です。また、共通教育の時間割の適正化、学生による授業評価についても委員会で検討しているところです。

最後に、大学の役割について一言。いま、国と経済界は大学に対して教育と研究をもっとしっかりとやりなさいと言っています。これからは急速に変動している国際社会ですぐに活躍できる人材がますます必要となるので、そのような人材を育成する大学に大きな期待が寄せられているからです。大学での人材育成と教育とはどのようなものでしょうか。工場は、ベルトコンベア上で部品を組み立て、品質を保証し、さらに付加価値をつけて市場で売れる商品を製造します。これをそのまま大学にあてはめると、「大学は、カリキュラムに従って学生を教育し、学力を保証し、さらに専門的能力をつけて社会で役立つ人材を育てます」、となります。学生諸君はこのことをどのように考えますか。